



第1回 目指せ「星空保護区」

日本一のきれいな星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを今月から12回シリーズで紹介します。



今月の星空スポット 六呂師高原
写真：moco@moco.0420

「星空保護区」とは、国際ダークスカイ協会（IDA）が認定する、暗く美しい夜空を保護するための優れた取り組みを行う地域のことで、「星空の世界遺産」ともいらわれています。

国内では、西表石垣国立公園（沖縄県石垣市、竹富町）、神津島（東京都神津島村）、美星町（岡山県井原市）の3つの地域が星空保護区の認定を受けています。

本市では、南六呂師区を対象地域として申請予定で、5つの認定区分のうち「アーバン・ナйтスカイプレイス」部門での認定を目指しています。この区分で認定されるとアジア初となります。

◆◆◆◆◆今月の星座◆◆◆◆◆ やぎ座

やぎ座は、頭はやぎで尾の部分が魚という不思議な動物の姿を表した星座です。国内では秋に見ることができます。

ギリシャ神話では、神々がナイル川のほとりで宴会をしていたとき、突然怪獣テュフォンが現れ、牧畜の神パーンは魚に化けてナイル川に飛び込んで逃げようとした。しかし、慌てていたため、上半身がやぎで下半身が魚の姿になってしまったといわれています。



イラスト：望月詩織

星のまち
おおの
★
★
★
★

第2回
ひかりがい
新たな環境問題「光害」

日本一のきれいな星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを12回シリーズで紹介しています。



今月の星空スポット 蕨生地区
撮影者：橋本恒夫さん

光害とは、過剰または不適切な人工の光が周辺環境へ及ぼす悪影響のことです。具体的には、安眠の妨げやエネルギー資源の浪費のほか、野生動物の生態が乱される、農作物の生育が悪化し収穫量が減少する、美しい星空が見られなくなることなどが挙げられます。

過剰に明るく、上空など無意味な方向を照らす不適切な光を抑えていくことが必要です。家庭では、夜に遮光カーテンを閉めたり、外灯を人感センサーライトや小さいワット数の電球に交換したりすることで、光害の防止につながります。南六呂師区の防犯灯や市と県の施設の屋外照明は、全て光害に対応した照明に交換し、美しい星空の保全に努めています。

◆◆◆◆◆ 今月の星座 ◆◆◆◆◆ みずがめ座

みずがめ座は十二星座の一つで、水瓶を抱える美少年ガニメデの姿を表した星座です。国内では秋に見ることができます。

ギリシャ神話では、大神ゼウスが酒を注がせるため、鷲に変身して美少年ガニメデをさらっていきました。それ以降、ガニメデは神々の宮殿で酒を注ぐ役割を担い、夜空には彼をかたどった星座が輝くようになったといわれています。



イラスト：望月詩織



第3回 星のまち鑑賞会

日本一のきれいな星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを12回シリーズで紹介しています。



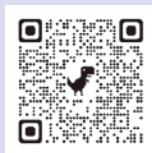
今月の星空スポット 冬の大三角と荒島岳
撮影者：橋本恒夫さん

現在、市内には「オヤット天文クラブ」、「奥越星を見る会」の2つの天文クラブがあります。これらの天文クラブと市外の天文クラブが中心となり、市役所駐車場で、定期的な星空観察「星のまち鑑賞会」を開いています。市街地でも美しい星空を見上げられる、大野市ならではの催しとして、昨年9月23日から始まりました。

星空観察は、環境保全の重要性について関心を深める良い機会となります。誰でも気軽に参加できる鑑賞会なので、皆さんもぜひ望遠鏡をのぞきにきてください。

※鑑賞会日程は「星のまちおおの」

Facebookでご確認ください▶



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆今月の星座◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆うお座◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

うお座は、ひもで結ばれた2匹の魚の姿をした星座です。十二星座の1つで、トレミーの48星座の1つでもあります。最も明るい星でも4等星と、観察するのが難しい星座です。ギリシャ神話では、女神アフロディテとその息子エロスが川岸で怪物テュポンに襲われたとき、2人は離れないようにひもをつけて、魚に姿を変えて川に飛び込んだ時の姿といわれています。



イラスト：望月詩織



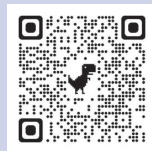
第4回 世界天文月間と 国際ダークスカイ週間

日本一美しい星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを12回シリーズで紹介します。

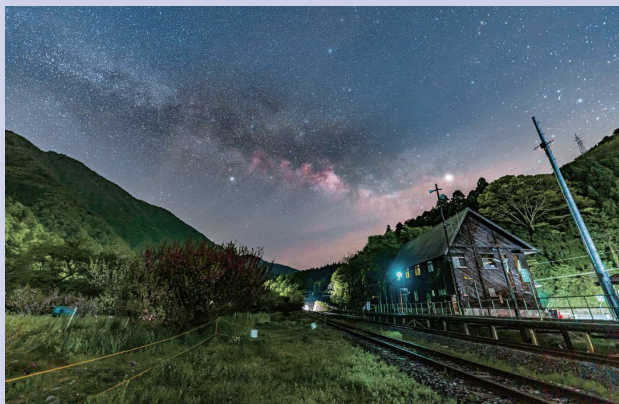
『世界天文月間』は、「一つの空のもと、人々はひとつ」をモットーとする国境なき天文学者団の主催で、世界中の天文好きの協力を得ながら毎年4月に行われている世界規模の天文イベントです。

その一環で実施されているのが、国際ダークスカイ協会(IDA)主催の『国際ダークスカイ週間』です。これは、光害への認識を高めるため世界規模で行われる取り組みで、今年は4月15日～22日に開催されます。

本市では、国際ダークスカイ週間に合わせて、星空保護区に認定されている自治体と連携した取り組みを行う予定です。詳しくは「星のまちおおの」Facebookでお知らせしていきます。



▲星のまちおおの
Facebook



今月の星空スポット 勝原駅 撮影者：i.i.i.v.vさん

◆◆◆今月の星座 おひつじ座◆◆◆

おひつじ座は、平原にたたずむ羊の姿を表した星座で、黄道十二星座の1つです。星座の頭にあたる2等星ハマルが一番明るく、ほかに3～4等星の星が「へ」の字ように並んだ形をしています。

ギリシャ神話では、フリクソス王子と妹のヘレー王女が殺されそうになり、大神ゼウスが子どもたちを助けるために遣わした、空を飛ぶ金毛の羊とされています。



イラスト：望月詩織



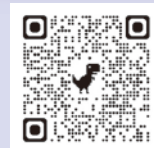
第5回 国際ダークスカイ協会 (IDA)

日本一美しい星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを12回シリーズで紹介します。

「国際ダークスカイ協会」(通称IDA)は、光害問題に対する取り組みで先導的な役割を担う組織で、昭和63年に米国で設立されたNPO団体です。

また、「国際ダークスカイ協会東京支部」(IDA東京)は、平成25年1月9日に設立が認可された、日本唯一の支部です。

国際ダークスカイ協会は、星空保護区の認定を行っていて、本市は、4月に星空保護区(アーバン・ナイトスカイプレイス部門)の申請書を提出しました。



▲星のまちおおの
Facebook



今月の星空スポット 小山地区 撮影者：佐々木修さん

◇◇◇◇◇ 今月の星座 ◇◇◇◇◇ おうし座

おうし座は、狩人オリオンに襲いかかる雄牛の姿をした星座です。おうし座で最も明るい1等星アルデバランと、「すばる」と呼ばれるプレアデス星団とヒアデス星団などから形付けられた星座です。

ギリシャ神話では、大神ゼウスがフェニキア王の一人娘エウロパをさらうときに変身した雄牛の姿と言われています。



イラスト：望月詩織



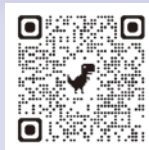
第6回 「アーバン・ナйтスカイ プレイス」

日本一美しい星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを12回シリーズで紹介します。

星空保護区には、五つの認定区分があります。本市が申請した認定区分は、「アーバン・ナйтスカイプレイス」です。

「アーバン・ナйтスカイプレイス」とは、近隣の明るい都市の影響を受けながらも、暗い夜間環境を保護・推進する優れた取り組みをしている場所です。

夜間の自然環境への光害影響を最小に抑えながら、公共の安全を確保する適切な屋外照明の設置と、地域での星空保護に関する普及・啓発活動が認定の条件となります。



▲星のまちおおの
Facebook



今月の星空スポット 和泉地区 撮影者：長谷川祐一さん

◆◆◆◆◆今月の星座◆◆◆◆◆ ふたご座

ふたご座は、2人の子が並んだ姿を表した冬の星座です。1等星ポルクスと2等星カストルが2人の頭の部分にあたり、仲良く並んだように見えることからその名がつけました。

ギリシャ神話では、人間の血を引く兄カストルが戦いで命を落とし、神の血を引き不死身であった弟ポルクスも兄と同じく死を望み、大神ゼウスに懇願したところ、ゼウスは兄を慕うポルクスに心を打たれ、2人を並べて天に上げたといわれています。



イラスト：望月詩織



第7回 星のまちおおの ライトダウン2023

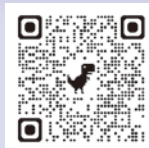
日本一美しい星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを12回シリーズで紹介します。



今月の星空スポット 南六呂師地区
撮影者：dtmfreeさん

星のまちおおのライトダウン2023は、本市の美しい星空を通じ環境問題について一緒に学ぶ機会を創出するため、クールアース・デーに合わせて、市民や市内事業所の協力のもと、一斉に消灯を実施することで、星空観察のしやすい夜空を創出する取り組みです(詳しくは8ページに記載)。

統一実施日に合わせて星のまち鑑賞会も開催しますので、ぜひ望遠鏡をのぞきに来てください。



▲鑑賞会日程など
詳しくはこちら
(星のまちおおの
Facebook)

◆◆◆◆◆今月の星座◆かに座◆◆◆◆◆

かに座は、かにの姿を表した春の星座です。ほぼ中央にある星の集まりはM44(プレセペ星団)と呼ばれ、双眼鏡を使うと美しい赤やオレンジ色の星が観察できます。

ギリシャ神話では、大かにの仲間のヒドラがヘラクレスと戦っていた時、ヒドラが負けそうになったため、ヒドラを助けようと大かにがヘラクレスの足を挟もうとしましたが、逆に踏み潰されてしまいました。それを見ていた女神ヘラが、友達思いの大かにを天に上げ、かに座になったといわれています。



イラスト：望月詩織



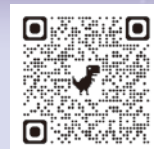
第8回 星空ハンモック

日本一美しい星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを12回シリーズで紹介します。

ミルク工房奥越前の前では、ハンモックに包まれながら星空を観望できる「星空ハンモック」を実施しています。

このイベントは、ミルク工房奥越前、大野市、福井工業大学との共同団体であるMOFネットワークが主催で行っており、星空保護区認定後の六呂師高原での星空観光を推進するため、平成30年から始めた取り組みです。

家族や友人などと、ハンモックでのんびりくつろぎながら、夜の高原に広がる満天の星を満喫してみたいはいかがでしょうか。



▲星空ハンモックの日程はこちら
(ミルク工房奥越前ホームページ)



今月の星空スポット 蓑道区 撮影者：佐々木修さん

◆◆◆◆◆今月の星座◆◆◆◆◆ しし座

しし座は、ギリシャ神話の人食いライオンの姿を表した春に見られる星座です。獅子の大鎌と呼ばれる星の並びが特徴です。また、獅子の首あたりに放射点を持つしし座流星群があり、毎年11月中旬に活動が活発になります。

ギリシャ神話では、しし座はネメアの森に住む人食いライオンとして恐れられていましたが、ライオン退治を命じられた、勇者ヘラクレスによって退治されてしまい、星座になったといわれています。



イラスト：望月詩織



第9回 夜空の明るさ調査

日本一美しい星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを12回シリーズで紹介します。

空の明るさ調査は、デジタルカメラを用いて星空を撮影し、その画像データから「夜空の明るさ」を測定する取り組みです。環境省と星空公団が共同で実施しており、夏と冬の2回、全国各地の調査参加者による観察データを集めています。本市は県自然保護センターとオヤット天文クラブが毎年調査結果を報告しています。さらに、本市は星空保護区認定取得のため、昨年からは福井工業大学と星空公団の協力のもと、南六呂師エリアに測定器を置き、季節ごとのデータを収集してきました。

積雪の影響のある冬期を除き、天の川が見やすいとされる20等級を上回る21等級台であり、美しい星空であるということがデータからも証明されています。



今月の星空スポット 越前大野城と満月
撮影者：佐々木修さん

◆◆◆◆◆ 今月の星座 ◆◆◆◆◆ おとめ座

おとめ座は、手に麦の穂を持つ女神の姿を表した春の星座です。おとめ座の α 星スピカは、青白く輝く1等星で、オレンジ色に輝く1等星アークトゥルスと合わせて「春の夫婦星」ともいわれます。収穫の神デメテルの娘ペルセポネが、冥土の神ハデスにさらわれ、デメテルが悲しみ、ほら穴に閉じこもると、草木や花が枯れました。それを見かねた大神ゼウスがペルセポネを救い、大地は緑に覆われましたが、ペルセポネがハデスにだまされて、ザクロの実を食べ、1年の3分の1を冥土で暮らす羽目になり、娘のいないこの時期は、デメテルは悲しみ大地は枯れ果て、これが冬となり季節の始まりとなったといわれています。



イラスト：望月詩織



第10回

星空の街・あおぞらの街全国大会

日本一美しい星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを12回シリーズで紹介します。

大気環境を大切にすることを意識を高めることと、ふるさとの環境を生かした地域おこしに役立てることを目的に環境省などが主催して行う大会です。平成元年度から毎年全国各地で開催されていて、今月の8日、9日に本市で開催されます。

大会では、記念講演や開催地の団体による環境保全に関する発表などが行われます。優れた環境保全や普及啓発活動などを行った団体と個人に、環境大臣賞や「星空の街・あおぞらの街」全国協議会長賞などが授与されます。 ※本大会の参加受け付けはすでに終了しています



今月の星空スポット 大野地区
撮影者：moco.0420さん

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 今月の星座 てんびん座 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

てんびん座は、^{てんびん}天秤の形をした夏の星座です。

もともとは、さそり座の一部であったことから、 α 星と β 星には、それぞれ「南の爪」、「北の爪」を意味する名前が付けられています。暗い星ばかりのため目立たない星座です。

ギリシャ神話 はるか昔、神々と人間は一緒に暮らしていましたが、人間が武器を持って争いを繰り返すようになり、神々は天へ引き上げてしまいました。ただ一人この世に留まったのが、正義の女神アストレアで、^{てんびん}彼女は人間の正義を測るために天秤を使い、正義を説いたり、悪を退けたりしました。しかしそのアストレアさえもついに人間社会の悪に嫌気が差し、天に去って星座になったといわれています。



イラスト：望月詩織



第11回

星のソムリエ®

日本一美しい星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを12回シリーズで紹介します。

星のソムリエ(星空案内人)は、「星や宇宙が好き」という気持ちを持つ誰もが星空案内人になれるように導いてくれる資格認定制度です。

南六呂師区にある県自然保護センターでも星のソムリエを育成し、星のソムリエとなった人たちが、各地域で子ども会やPTAの行事など、さまざまな機会に多くの人に星空や宇宙への関心を広げていくことを目指しています。



今月の星空スポット どんぐりグリーン広場 撮影者：@hiroaki2410さん

◆◆◆今月の星座◆◆◆ さそり座 ◆◆◆

さそり座は、尾に毒針を持つサソリの姿をした夏の星座です。

さそり座の特徴的なS字カーブは、釣り針に見立てられることもあり、釣りにちなんだ名前や伝説もあります。

赤く輝くアンタレスという1等星は、さそり座の心臓近くにあるため、サソリの心臓とも呼ばれています。

神話：狩人オリオンは、自分がいつも強いと自慢していました。それを見ていた女神ガイアが怒り、1匹のサソリにオリオンを殺させました。その後互いに星座になったオリオン座とさそり座は反対の位置にあり、さそり座が空に昇るとオリオン座が沈むので、サソリを恐れるオリオンが逃げているといわれています。



イラスト：望月詩織



第12回(最終回)

国内の星空保護区認定地との連携

日本一美しい星空は大野の宝です。この星空を守り、未来へ受け継ぐ取り組みなどを12回シリーズで紹介します。

国内ではあまり認知されていない光害ですが、世界では欧米などの先進国を中心に大きな問題として捉えられ、星空保護の取り組みが活発になっています。

そこで、星空保護区認定制度のさらなる浸透や星空の環境保護意識の醸成、各地域への誘客を図ることを目的に、国内で星空保護区[®]に認定された地域(沖縄県石垣市、竹富町、東京都神津島村、岡山県井原市)と連携することになりました。その第1弾として、それぞれの認定地の取り組みや魅力を紹介する共同パンフレットを製作しました。今後も連携して全国へ星空保護についてPRしていきます。



今月の星空スポット 六呂師高原

撮影者：hiroaki2410さん

今月の星座 いいて座

いて座は、ギリシャ神話に登場する半人半馬のケンタウロス族、ケイロンの姿をした夏の星座です。

天の川にかかる六つの明るい星が「ひしゃく」の形に並んだ南斗六星がいて座の目印です。

神話:いて座の馬人ケイロンは、ヘラクレスの弓の先生でした。後にヘラクレスと、ケンタウロス一族との戦いに巻き込まれ、ヘラクレスが放った矢がケイロンに刺さりました。ケイロンは不死身でしたが、傷の痛みには耐えられず、不死の力を譲り、死を選びました。

その死を悼んだ大神ゼウスは、ケイロンの姿をいて座にしたと言われています。



イラスト：望月詩織